

ナンバリング		授業科目名 (科目の英文名)				区分						
M212P205		看護過程論 ( Nursing Care Process )				専門教育科目 基礎看護学						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員							
必修	1	2	前・後	前期 水曜2限 後期 月曜2限	原田千鶴, 佐藤祐貴子, 清村紀子, 野上龍太郎 他 内線 5035 E-mailcharada@oita-u.ac.jp							
【授業の概要・到達目標】 看護過程は、看護を必要とする対象の看護問題を解決するために行なう思考と行動の過程である。ここでは、問題解決的思考の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）するための方法としての看護過程と活用するための代表的な中範囲理論を学ぶ。また、看護実践は、患者と看護者の人間関係を通じて行われることを理解し、人間関係能力を高める方法としての「プロセスレコード」の活用方法を学ぶ												
具体的な到達目標						看護学科ディプロマポリシーとの対応						
						1	2	3	4	5	6	7
1. 看護実践における看護過程の必要性と重要性について説明することができる						○						
2. 代表的な中範囲理論を活用し、対象者のアセスメントができる						○						
3. 個別的、全体論的に患者を理解することができる						○						
4. 長期目標、短期目標を見据え、優先順位を考慮した看護ケア計画を立案することができる								◎				
5. 看護ケアの実施における倫理的態度について説明することができる									○			
6. 適切に看護実施・評価の記録を記載することの必要性を理解し実践できる						○						
7. 主体的に思考し、メンバーと協働しながら、自己主導的に学修する力を高めることができる											○	
8. 看護実践において看護者の人間関係能力の必要性を学び、能力向上のための道具である「プロセスレコード」の活用方法を理解することができる							○					
【授業の内容】												
回数	学修テーマ		学修内容				方法					
1-3	I. 看護過程の概論		看護過程の基盤となる考え方				講義					
4-8	II. 看護活用で活かす中範囲理論の理解		「健康知覚 - 健康管理」「自己知覚 - 自己概念」「役割 - 関係」「コーピング・ストレス耐性」「価値 - 信念」				講義 演習					
9-17	III. 紙面事例を用いた看護過程展開演習 (GW:発表・討論、解説)		Step1 情報収集; データ収集/情報整理 Step2 分析的なアセスメント/アセスメントの結論 Step3 アセスメントの結論の関連図を描き、記述する Step4 看護目標/看護上の問題点の抽出/期待される結果 具体的看護ケアプランの立案/評価計画				講義 演習					
18-20	IV. 紙面事例の模擬的看護実践の演習		Step5 実践				演習					
21-22	V. 看護実践過程における看護過程		1. 対人関係を基盤とする看護過程 2. 自己理解と他者理解の道具としてのプロセスレコードの理解				講義 演習					
【教科書】①黒田裕子著「しっかり身につく看護過程」(改訂第2版) 照林社 ②黒田裕子編「看護診断のためのよくわかる中範囲理論」(第3版) 学研メディカル秀潤社 ③高木永子「看護過程に沿った対症看護」(第5版) 学研メディカル秀潤社 ④西崎祐史編「ケアに生かす検査値ガイド」(第2版) 照林社												
【参考書】①疾病論、成人看護学等の既習のテキスト ②Marjory Gordon ゴードン博士の看護診断アセスメント指針—よくわかる機能的健康パターン (2006) 1年次購入済												
【成績評価方法及び評価の割合】 リアクションシートの提出を前提とする												
評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8		
期末テスト		40%	○							○		
問題解決的看護過程演習 group 成果演習 参加度・貢献度		20%	○	○	○	○	○		○			
" 個人成果		20%	○	○	○	○		○				
プロセスレコード演習および成果		20%					○		○	○		
【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】												
A: 知識の定着・確認	○	・演習シート ・リアクションシート				紙上事例を用いてグループ演習を行う グループ演習終了後は、個人での演習に 取り組み、学修の機会を設ける。						
B: 意見の表現・交換	○	・G 演習経過の発表資料・リアクションシート ・看護実践のデモンストレーション										
C: 応用志向												
D: 知識の活用・創造												
【時間外学修の内容と時間の目安】												
準備学修	①On-Demand教材 文献の抄読 (各45分) ②GW 事前準備 (各45分)											
事後学修	事例のアセスメントグループ演習発表準備 (45分)											
【注意事項】 グループ学習での個別指導の際には、必ず教員と事前に時間調整を行うこと												
【備考】 看護の対象論 (1年次) 資料 他 1年次履修済、2年次履修中講義資料や参考書を活用する												

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	看護師:原田千鶴、清菜子、佐藤貴子、野上龍太郎 その他	
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無	無	
教員以外の指導に関わる 実務経験者		
実務経験をいかした 教育内容	<p>問題解決型看護課程では、臨床看護実践の実務経験を活かして紙面患者事例を作成し、看護過程学習をステップごとに進める。</p> <p>人間関係論的看護課程では、実務経験を体験した対人関係の事例を通じて、看護過程やその分析を学ぶ事例で活用する。</p>	